

5団体合同で新年名刺交換会

官民一体で地域経済の
活性化に取り組む



初春の恒例・新年名刺交換会が1月7日（火）午前10時30分から、JR奈良駅西側のホテル日航奈良で開催された。当部、及び、奈良商工会議所、奈良経済同友会、一般社団法人奈良県経済産業協会、奈良商工会議所友好倶楽部の県内経済5団体が合同開催しているもので、各主催団体の会員をはじめ、荒井・奈良県知事、仲川・奈良市長ほか県内市町村の首長や議会関係者、衆参国会議員や秘書各氏、官公庁のご代表、関係諸機関ご代表ら来賓も多数参集。総勢700人が大会場に会し、熱気あふれる盛大な会合となった。

名刺交換会は、まず参加者全員で国歌を斉唱して新年の門出を祝したのに続いて、来賓各氏を紹介。代表して荒井知事は「県政最大の課題は経済活性化と雇用の確保。県民経済計算では、平成27年度比で28年度は県民所得、経済成長率とともに上昇している。今後も歴然と続くように切に願うところです。そして、経済に直結する

若者の県外流出防止に向けて雇用促進を図り、引き続き成長できるよう、皆さんと一丸となって奈良県経済が好循環するように努力を重ねたい」とあいさつ。

仲川奈良市長は「今年は平城遷都1300年から10年を迎える。この10年で県内の雇用情勢や経済活動は好調になってきている。また新たに起業する方や海外展開を試みる若い事業者も増えてきた。人口減少など難しい課題もあるが、経済団体の皆さんと行政がスクラムを組んで、奈良の持続的な発展に尽くしていきたい。東京オリンピック・パラリンピックはもちろんですが、2025年の大阪万博で奈良が埋没することのないように、皆様方と力を合わせて存在感を上げていきたい」と話された。

次いで、主催者を代表して小山新造・奈良商工会議所会頭のご発声で威勢よく乾杯の音頭をとり、2020年の幕を開けた。